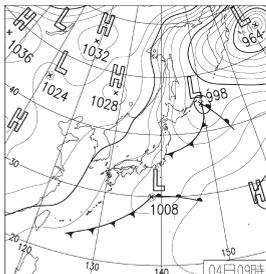


日々の天気図

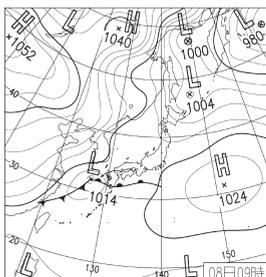
— No. 144

2014年1月

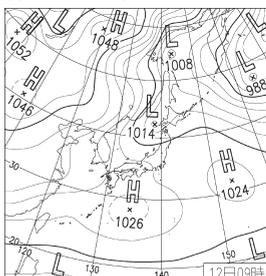
- ・9日、冬型の気圧配置が強まり西～北日本で雪や雨、日降雪量は、新潟県妙高市関山で69 cm、鳥取県大山町大山で65 cm、岡山県真庭市上長田で63 cm。
- ・沖縄・奄美では月降水量が平年の35%、月間日照時間が平年の175%となり共に1月の記録を更新。(気象庁予報部予報課)



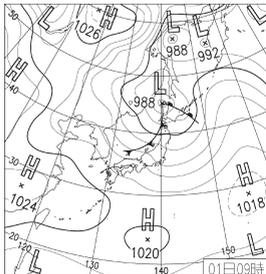
4日(土) 冬型の気圧配置強まる
北海道の東と日本の南海上に低気圧が東進。冬型の気圧配置が強まり、日本海側で雪や雨。北海道で大雪。沖縄・奄美では、前線により朝まで雨。鳥取市鹿野で日降水量73 mm。



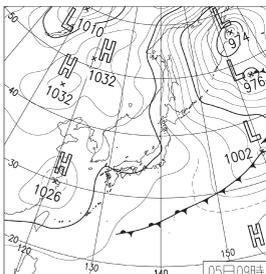
8日(水) 広い範囲で雨
低気圧が東シナ海から四国の南海上へ進み、西日本から東日本の広い範囲で雨。久しぶりにまとまった雨となった所も多く、千葉県勝浦では日降水量70.5 mm。



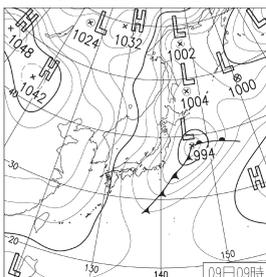
12日(日) 低気圧発達
西日本は概ね晴れたが、気圧の谷の影響により沖縄～九州は曇りや雨。発達中の低気圧により北日本は風が強まり東北の太平洋側も雪。沖縄県久米島町謝名堂で28.5 mm/1hの雨。



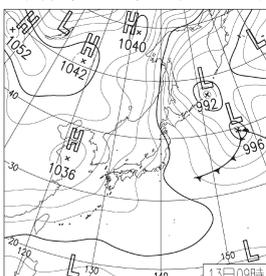
1日(水) 暖かい元旦
宗谷海峡付近の低気圧に向かって暖気が流れ込み、全国的に気温上昇。最高・最低気温は全国的に3月上旬～4月上旬並の所が多い。北日本は風が強く、北海道を中心に暴風雪に。



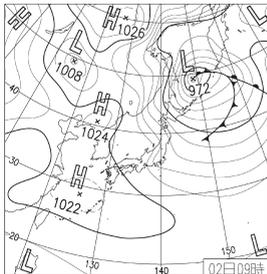
5日(日) 西～東日本は冬型緩む
北日本中心に冬型気圧配置となり、北陸～北日本は日本海側中心に雪や雨。寒気や気圧の谷の影響により、沖縄・奄美、九州、関東なども曇りや雨。横浜市でツバキ開花。



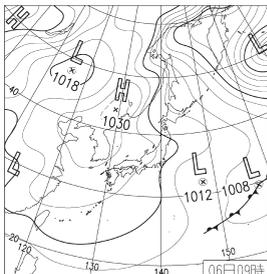
9日(木) 冬型の気圧配置強まる
低気圧が日本の東海上で発達し、冬型の気圧配置強まる。日本海側で雪や雨。鳥根県安来市伯太で日降水量50 mm、1月の1位を更新。横浜で初雪。沖縄県と茨城県で震度4の地震。



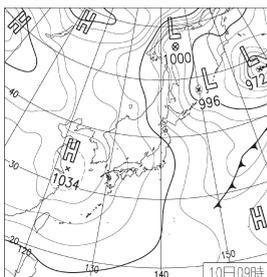
13日(月) 寒い成人の日
冬型の気圧配置、上空1500 m付近で-6℃以下の寒気が本州南岸まで南下し各地で冷え込む。最低気温は北日本中心に今季最低を更新し、北海道中頓別と枝幸町歌登で共に-29.5℃。



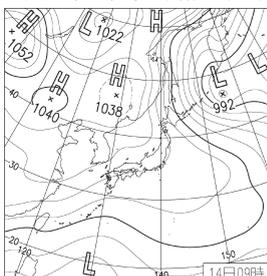
2日(木) 暴風の峠越える
北陸以北の日本海側は雪。太平洋側は晴れて西日本は3月並の最高気温。秋田県八森では1月の記録を更新する最大風速21.2 m/s。山形県酒田市飛島で最大瞬間風速33.6 m/s。



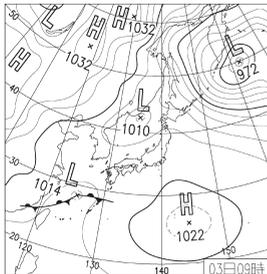
6日(月) 弱い冬型続く
日本海側は雪または雨、西～東日本の太平洋側はよく晴れる。北日本中心に冷え込みが強く、旭川では最低気温が平年より5℃低い-16.4℃。長崎で平年より16日遅い初氷。



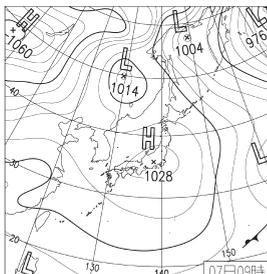
10日(金) 強い寒気
冬型気圧配置で全国的に低温。日本海側を中心に雪や雨、太平洋側でも一部で雪。北海道はすべての観測地点で、東北もほとんどの地点で真冬日。西日本も冬日多数。神戸で初氷。



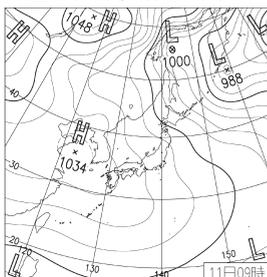
14日(火) 冬型の気圧配置緩む
北日本で寒気の影響が残ったが、本州付近は高気圧に覆われる。東～北日本の日本海側で曇りや雪の他は、概ね晴れ。沖縄の南で前線が発生し、沖縄～九州南部で曇りや雨。



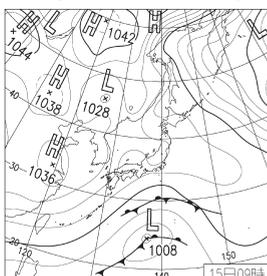
3日(金) 二つの低気圧
日本海の低気圧と東シナ海の前線を伴った低気圧が東進。北日本の日本海側を中心に雪や雨、沖縄・奄美～九州南部も雨。長野県皆平で、最低気温が平年より9.1℃低い-20.7℃に。



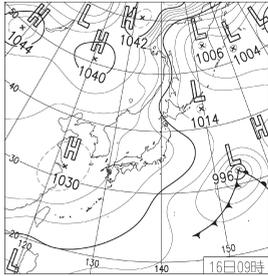
7日(火) 移動性高気圧が通過
日中は全国的に晴れたが、夜は気圧の谷の影響により西日本で雲が広がり、九州や四国の太平洋側は雨。内陸部を中心に気温は低く、沖縄を除く地点の約8割、713地点で冬日。



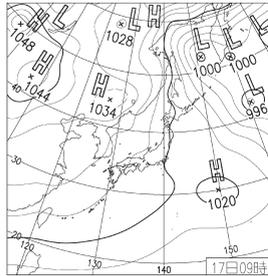
11日(土) 寒さ続く
朝の最低気温は東・北日本太平洋側を中心に平年を下回り、連日全観測地点の約8割で冬日。最高気温もほぼ全国的に平年を下回る。青森市酸ヶ湯で積雪の深さが3 mに到達。



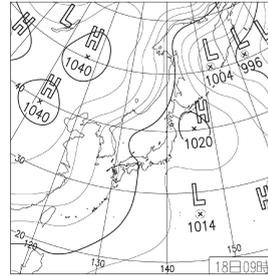
15日(水) 太平洋側の一部で雪
南海上の前線により、西日本や東日本太平洋側の一部で雪や雨。寒気の影響により、沖縄・奄美で雨、山陰～北陸・北日本で雪や雨。静岡で初雪。那覇市でヒカンザク開花。



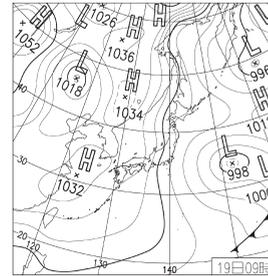
16日(木)再び冬型気圧配置に
日本海側は雪や雨、青森市酸ヶ湯で日降雪量29 cm。最低気温は九州・東海・関東甲信等で平年よりかなり低く、東京と横浜は今季初の氷点下。石垣市等でヒカンザクラ開花。



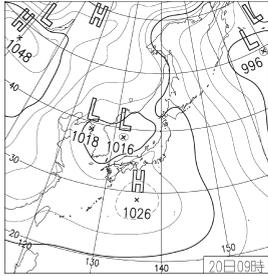
17日(金)北海道江丹別で-30.5℃
日本海側は雪が続く。北海道は気温が低く、北海道の観測地点の約1/3にあたる58地点で最低気温-20℃以下を記録。旭川市江丹別では-30.5℃となり、今季内初の-30℃以下。



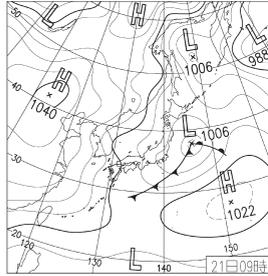
18日(土)北日本冷え込む
寒気の影響で日本海側を中心に雪や雨。北日本は最低気温が平年を10℃前後下回った所もあり、青森県黒石-18.3℃、平川市碓ヶ関-16.6℃で、共に史上1位更新。台風第1号発生。



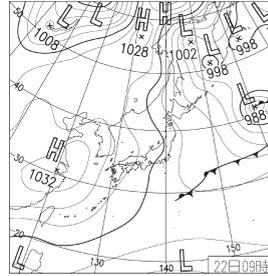
19日(日)太平洋側平野部でも雪
冬型の気圧配置が強まり上空に強い寒気が流入したため、日本海側を中心に関東等太平洋側の平野部でも広範囲に雪。長野県野沢温泉で日降雪量48 cm。銚子・熊谷・水戸で初雪。



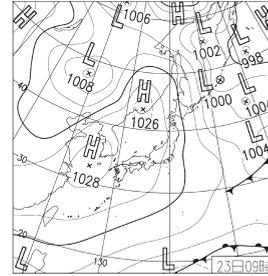
20日(月)全国的に低温の大寒
日本海を低気圧が進み、西日本や北陸、北日本の日本海側で雪や雨。東海・関東や北日本の太平洋側は晴れや曇り。朝の最低気温は全国的に低く、北海道枝幸町歌登で-31.3℃。



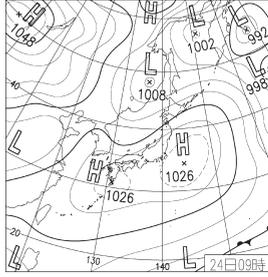
21日(火)網走で流氷初日
低気圧が日本の東に去り冬型の気圧配置に、日本付近では寒気に伴う筋状雲域が拡大し、日本海側は雪。はじめ晴れた太平洋側も所々で雨や雪。佐賀市・福岡市でスイセン開花。



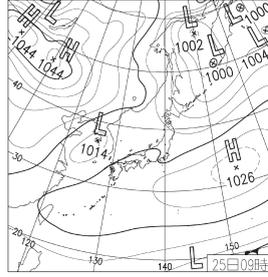
22日(水)全国的に寒い一日
冬型の気圧配置が継続。日本海側は雪、太平洋側は晴れ。全国的に日中の気温は低く、父島を除く全ての観測地点で最高気温が20℃未満。北海道は全ての地点で真冬日。



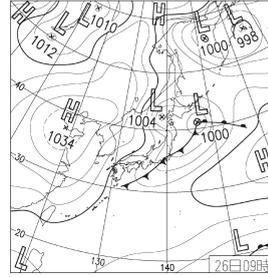
23日(木)北海道で-30℃以下
冬型気圧配置は次第に緩み、北陸以北の日本海側を除いて概ね晴れ。北海道は寒気が残り、下川の-31.1℃をはじめ、上川地方の3地点で最低気温が-30℃以下に。松山市でウメ開花。



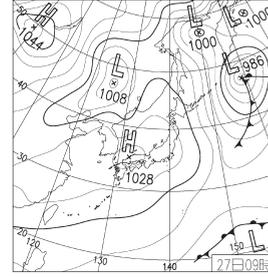
24日(金)高気圧に覆われ晴れ
南海上の高気圧に覆われて、沖縄～東日本は概ね晴れ。福島県南会津町田島では最低気温-19.2℃で1月の1位を更新。最高気温は全国的に高く、3月並となった地点が多い。



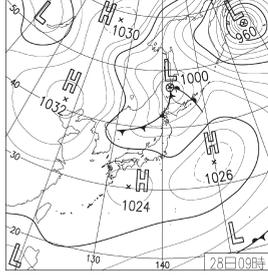
25日(土)春の気温
黄海の低気圧が発達しながら日本海へ進み、全国的に天気は下り坂で、夜には西～北日本の広い範囲に降水域拡大。全国的に暖気が入り気温は上昇、最高気温が4月並の所も。



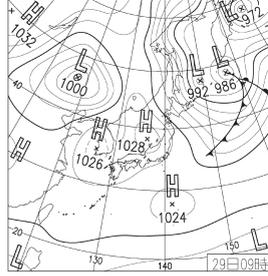
26日(日)低気圧と前線通過
北海道を低気圧が通過、遠軽町遠軽で日降雪量37 cm。暖気の影響で全国的に冷え込みは弱く、朝の最低気温は3月下旬～4月下旬並の所が多い。宮崎市・横浜市でウメ開花。



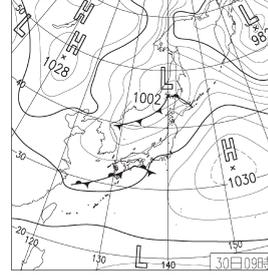
27日(月)一時的に気温低下
日本海側の一部を除き晴れ。寒気流入により、冬日は沖縄を除く地点の約9割、784地点と多かったが、冬型の気圧配置はすぐに西から緩んで昇温へ。那覇市でヒカンザクラ満開。



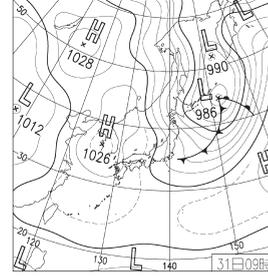
28日(火)全国的に気温上昇
低気圧が北海道の北を発達しながら東進。日本の南の高気圧から暖気が流入し3月並の暖かさ。北陸以北の日本海側は、寒冷前線により雷、金沢で6 mmのひょう、前線通過後に雪。



29日(水)北日本に寒気
発達中の低気圧が千島近海を東進。北日本日本海側は寒気の影響で雪。東日本以西は、移動性高気圧に覆われ概ね晴れて気温上昇。鹿児島市・銚子市でウメ開花。



30日(木)気圧の谷通過
南岸と北日本を低気圧や前線が通過。西～東日本は西から雨となり、北日本も雪や雨。暖気流入により、北日本を中心に11地点で1月の日最高気温の1位を更新。高知市でウメ開花。

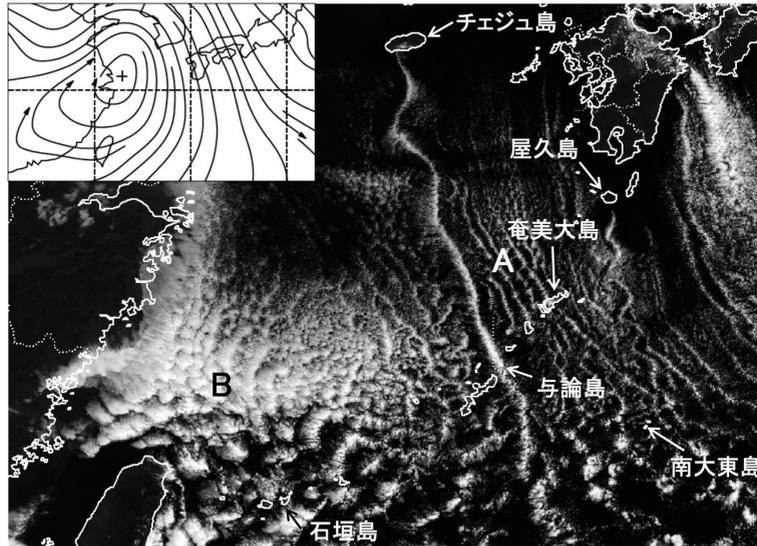


31日(金)台風第2号発生
北日本中心に強い寒気が流入。北海道えりも岬で最大瞬間風速33.1 m/s、岩手県西和賀町湯田で日降雪量34 cm。奄美市ヒカンザクラ満開。福岡市・下関市・名古屋市でウメ開花。



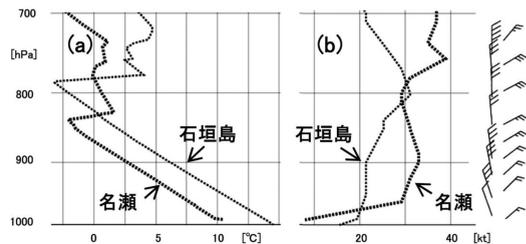
今月のひまわり画像—2014年1月

東シナ海付近に見られる多様な雲



第1図 2014年1月19日12時（日本時間）の東シナ海付近の可視画像（記号については本文参照）。左上の図は気象庁全球モデルによる同日09時の同海域付近の850 hPa 流線解析図。

冬の気圧配置が緩み、移動性高気圧が大陸から東シナ海付近に進むとき、衛星画像では多様な雲が見られることがある。第1図は2014年1月19日12時（日本時間）の同海域付近の可視画像である。チェジュ島（標高1950 m）の風下にはカルマン渦に類似した長蛇のような雲帯が約1000 km先の太平洋にまで流されている。円形に近い屋久島（標高1935 m）の南海上にもスケールの小さいカルマン渦を南大東島方面に追跡することができる。東シナ海の南部に目を向けると、大陸から南下した下層寒気が相対的に暖かい黒潮付近の海面から加熱され、様々な模様の雲が発生しており、与論島付近にかかっている上述の雲帯を境に東西でその様相が異なる。東側の海域には規則正しい筋状の雲列が生じている（同図A付近）。奄美大島の名瀬における同日09時の高層観測データ（第2図）などによると、移動性高気圧（第1図の左上図）の前面の下層では沈降が効いて顕著な安定層が形成され、混合層上端の高度が12時間前に比較して約1.2 km低くなっていた。また、混合層内においては筋状雲の走向に対応する北北西の風が強く、最下層では風速差による鉛



第2図 19日09時の名瀬、石垣島における下層の(a)気温、(b)風速の鉛直プロファイル（太線は名瀬、細線は石垣島。右端に掲載した風は左が名瀬、右が石垣島。単位はkt（1kt=0.51 m/s））。

直シアーが大きかった。一方、西側の海域には弱い降水を伴った直径約10～40 kmのセル状の雲域が形成されており（同図B付近）、高気圧周辺の風に流され西進していた。同日09時にこのセル状の雲域がかかった石垣島では、混合層上端の高度は名瀬よりも約0.5 km高くなっており、同層内では風は比較的弱く、鉛直シアーは小さい状況にあった（第2図）。

（気象庁予報部予報課 木下 仁）